

ひなぎくの森 第11話 文*sawori

年が明け、もう1月も半ば・・・

クリスマス以来、フランソワは週に1、2回エバーグリーンハウスにバイトに入るようになった。急激に仲良くなった椿と一緒にいることも多く、そんな日はひなぎく談義に花を咲かせるのであった。

「お正月のひなぎく、富美枝サンに着物着せられたんですけど、本当にお人形かと思いました。美しかったです。」

「え、なにそれ聞いてないよ、写真ないの？」CDの値札貼りを中断して椿が近く。

「見惚れすぎて忘れてたんです。すぐ着替えてしまって、もう一度着てくれるように頼んだんですけど、は？なんで？と氷の一瞥もらいました。」

「え？ひなぼんの着物の写真ならあるよ、みる？」突然の松山店長参戦に驚きを隠せない2人。

「な、なんで店長がひなぎくのレア写真を？」

「なんか初詣の帰りだとかで、挨拶に寄ってくれたんだよ。あんまり可愛かったから写真撮ったんだ。いや～なんか娘の晴れ姿みたいでさ」

「ムスメ・・・」やはり店長にとってひなぎくはムスメ止まりの存在なのだろうか。それはそれでなんだか複雑な気持ちのフランソワ。

「うわ、かわい・・・」写真をみて椿が転送を願い入れるも、個人情報保護法により却下される。

「松山さん、ずるい・・・そうやってまた1人だけいいチョコもらうんだ。」

「いいチョコ？」フランソワが首をかしげる。

「もうすぐバレンタインデーだからね。ひなさんは毎年チョコくれるんだけど、松山さんの差が歴然すぎて悲しいイベントの一つさ。」

「フランスでは男性が愛しい人にバラを贈ります。風習が違うんですね。・・・で、その差というのは？」目がキラリと光るフランソワ。

「松山さんのだけなんか包みがデカイ・・・」ジロリと店長を睨む椿。

「いや～オレ甘党だからみんなより大きいチョコくれてるだけじゃない？それにほら、一応店長だし？」「ふ～ん」「Hmm・・・」納得行かなそうな2人の表情。

実はひなぎくは毎年手作りのチョコレートと一緒に1曲を選曲したCDをプレゼントしている。去年の選曲はビーチ・ボーイズの「素敵じゃないか」だった。その前はビートルズの「Something」。意図がわからないわけではないはずの店長だが、ひなぎくに対する態度は変えなかった。ドッシリと構えるのが大人の男さ。どれだけ彼女に救われてきたかなんてオレだけが知っていればいい話だ。そう、アルバートさんのように・・・。

注) 店長もひなぎく経由で富美枝所蔵の「キャンディ・キャンディ」読破しています。

つづく

* ひなぎくの森のカルチャーその11 素敵じゃないかと Something

ひなぎくがバレンタインデーに松山店長に贈った曲のご紹介♪

一部抜粋して歌詞をご紹介します♪

ビーチ・ボーイズ

「素敵じゃないか」

もしお互い歳をとったら素敵なんじゃないかな
そしたら、こんなに長く待たなくても良くなるよ
それに、もし一緒に暮らしたら素敵なんじゃないかな
2人だけのだけの世界と言えるようなところでね
素敵なんじゃないかな
分かるだろ、喋れば喋るほど
それ無しでは生きていく価値がなくなるようだよ



「50回目のプロポーズ」大好きな映画です。ドリュー・バリモアが可愛くて！この映画の中でこの曲が使われています。大好きな1曲。

The Beatles

「Something」

彼女の仕草の何かが
ほかの恋人にはないほど僕を惹きつける
きみは僕が育つのか聞いてくるけど
僕にはわからない わからないんだ
ずっと一緒にいられたら わかるかも



ジョージ・ハリスンの最高傑作。映画「ウォールフラワー」でチャーリーがサムにプレゼントしたCDがこれ。

(前回までのあらすじ) フランスからの留学生フランソワとレコード店で働くひなぎくとのカルチャー交流記。トルーマンのクリスマスライブでのメンバー紹介で前回は終わってしまいました笑 そろそろ恋バナに本腰入れようと思っています。

*過去の「ひなぎくの森」はホームページよりご覧になれます！

* sawori *

